

社会福祉法人稚内市社会福祉事業団

令和3年度事業報告

新型コロナウイルスの感染報道が慣例化されるなか、昨年度に引き続き約300人の利用者の新型コロナウイルス感染を防ぎ、事業停止なく地域の福祉資源として事業継続を果たせたことは、嘱託医師をはじめ多くの方から絶賛をいただき何よりも自賛に値することと考えます。

3年に一度の報酬改定におきましても、感染症対策をはじめ各事業の業務実践や経営実態が認められプラス改定となりました。通所系サービス事業では暴風雪と新型コロナウイルス予防対策を理由とした収入ダメージもありましたが、特養事業を中心としたデジタル化の事業補助の整備内容が評価され、当初の補助予定額を大きく上回る補助配分に変更され全体の事業経費率を抑えることができました。また、従事者的人材確保につきましては、年間を通じた日毎仕事として皆で努力した結果、新たに13人を当団職員として雇用することができました。

益々、複雑多様化するニーズと介護・福祉を巻く多くの課題を見据え、職場環境整備と組織信頼とブランド化を尚一層高めるために、将来に向けた新たな取り組みを自らが率先して実行する『自我作古』をスローガンとして取り組んできました。

特別養護老人ホーム事業におきましては、従来型では事業計画の柱であるデジタル化整備は、介護現場での最新の取組みとして各方面から多くの問合せをいただき、話題性を高めることとなりました。職員視点を重視したインカムは、予測どおり急な用事やアクシデント、特に深夜早朝時では職員数が日中帯に比べ少數となるため心強いと好評で、効果的なワークツールとして必須アイテムとなりそうです。また、タブレット型端末の導入や、全てのベッドに設置の見守りセンサーは、介護・看護職員等の業務負担軽減と情報の一元化、利用者の身体状況を適宜把握することができ、必要とする支援を迅速に提供する支援機器として今後の効果が期待されます。

ユニット型では、階層建ての2フロアの生活棟を有した施設ですので、インカムは日中帯のユニット内、同フロア内は勿論のこと、深夜早朝時の1、2階のフロア間の業務連絡ツールとして実に有効であり、特に業務経験の浅い職員への気遣い発信や、緊急時の指示・アドバイスのやり取り効果が期待できます。

養護老人ホーム富士見園におきましては、築32年を迎えた園舎の屋上及び外壁、鋼製建具の更新を予定通り実施し、当初の予定通り道と市からの補助金を受領し工事経費の一部に充当致しました。

また、施設運営の適正化を図るため、日常生活動作の低下された方には隣接の特別養護老人ホーム富士見園への住み替えに向けた支援を行った結果、準寝たきりや寝たきりの方はこの1年で6ポイント減の16%と減少しました。対象者の状態が変われば、施設として職員としても関わり方を変えていかなければなりませんので、入所者の行事の企画・運営の参加奨励等、入所者の自主性を尊重した提案型の生活プログラムの導入は勿論のこと、支援の必要性を鑑みた職員体制の在り方につきましても、併設のデイサービスセンター職員の業務連携を含めて対応してまいります。

デイサービス事業におきましては、特徴をもったセンターづくりを念頭に、富士見園を中度・重介護型デイサービス、潮見園を軽介護型デイサービスとしてリニューアルスタートしました。富士見園については、利用対象者の体調変動が大きく利用中止や登録廃止、利用期間の短期化もあって当初の利用目標には到達しませんでしたが、市内の医療型療養病床群の閉床したこともあるて、今後利用対象者が増すことも想定でき、市内で唯一、仰臥位のまま入浴可能な特殊浴槽をもったデイサービスセンターとして事業価値が高まると考えます。潮見園は、体調が安定され利用頻度も高い方が多いこと也有て、前年利用率を大きく上回る利用実績とすることができます。また、定員の見直しに伴う職員数の見直しも行い、事業としての収支の適正化を果たすこともできました。

居宅介護支援センター潮見園、東地区在宅介護支援センターにおきましては、認知症が起因する様々な生活上の諸問題の解決と、未然防止に向けて適切な支援を提供するために、地域ケア会議や個別ケア会議への出席、関係機関、地域との連携に努めました。また、当センターは二人のケアマネジャーで事業運営してきましたが、年度末に一人の依頼退職を予定しておりましたので、市内に所在する全居宅介護支援事業所にご理解・ご協力をいただきまして、利用者に不利益の無いように配慮したうえで、利用者の受け入れ要請等今後の体制に応じた利用調整を行いました。

就労継続支援B型事業所稚内市北光園におきましては、年度途中退職に伴う職員体制の再構築を行い通常業務の維持に努めました。利用状況では、法人自主感染予防対策による利用規制や、6日間の暴風雪による休園による利用者の減数はあったものの、新規利用者の受入活動をはじめ関係機関との連携不足もあって、通所利用数は当初目標や前年度実績を下回る結果となりました。就労支援事業は、クリーニングでは『まん延防止等重点措置』の影響による請負量の減、水耕栽培では9月の停電による影響もあって目標の売上に到達することができませんでしたが、両事業

とも品質管理、作業の安全性と効果性、そして利用者への自立支援を大切に取り組んでまいりました。

グループホームの共同生活援助事業所スマイルらいふにおきましては、通年で入居定員が充足したことと、世話人の家庭的で親身な関わり方等の工夫もあって、週末の滞在率も高まった結果、年間の入居稼働率が高まりました。

また、予定していた消防設備の簡易式スプリンクラーの更新、全棟のネット環境整備も終了し、安全と便利性、快適性を高めました。

残念ながら慰労と親睦を目的に予定していました『温泉一泊旅行』は、新型コロナウイルス感染予防のため昨年に引き続き自粛しましたので、楽しみを次年度に持ち越すこととしました。

令和3年度も法人一丸となって、様々な事案と向き合い事業運営に邁進してまいりましたが、これからも利用者本位を忘れず働きやすい労働環境整備に心掛け、地域の貴重な社会資源として事業活動を継続してまいります。